

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策1-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	-------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	農産園芸課長 森上 浩平	電話番号	0852-22-5123
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	米共同乾燥調製施設整備事業		
目的	(1) 対象	農業協同組合等	
	(2) 意図	既存JAエリアを越えた米共同乾燥調製施設の再編整備による広域的利用の促進	
事業概要	JA所有の共同利用施設について、JA統合を契機に、既存JAエリアを越えた広域的な利用を図ることによりコスト削減や農業者の利便性向上のため、米共同乾燥調製施設の高度化・再編整備を推進する。 そのため、サテライト方式等により広域的な利用を促進する場合、国庫補助事業の対象とならないサブ施設の荷受・輸送体制整備（計量設備・倉庫等）に対して支援する。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	再編利用計画対象米共同乾燥調製施設数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	再編利用計画に位置づけた米共同乾燥調製施設（カントリーエレベーター・ライスセンター）数	目標値		0.00	0.00	
			実績値	0.00	0.00	0.00	7.00		
			達成率		0.00	0.00	140.00		%
指標名	式・定義	再編利用計画に位置づけた米共同乾燥調製施設（カントリーエレベーター・ライスセンター）数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	35,610	
うち一般財源(千円)	35,610	

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基じた現状）

出雲地域における米共同乾燥調製施設の再編利用計画が策定され、国庫補助事業「強い農業づくり交付金」により黒目カントリーエレベーター（メイン施設）（JAしまね斐川地区本部管内）の改修を実施した。
併せて、西部カントリーエレベーター（JAしまねいずも地区本部管内）隣接地に当該事業で集出荷貯蔵施設（サブ施設サテライト利用）を建設した。
また、平成27年度の事業候補だった飯南町（JAしまね雲南地区本部）から、平成26年度の国庫補助事業の導入希望があったため、前倒して再編利用計画を策定し、「強い農業づくり交付金」により飯南カントリーエレベーターを建設した。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

【出雲・斐川地区】
 (1) 出雲地区
 出雲地区内で集荷した「つや姫」を黒目CEで乾燥調製することが可能となった。
 (2) 斐川地区
 生産拡大している「飼料用米」を出雲地区本部管内の倉庫に保管可能となった。
 これにより「つや姫」や「飼料用米」の広域利用体制が確立された。
 【飯南地区】
 JAエリアを超えた広域利用へはつながらなかったが、
 ①品質の均一化、適正管理、劣化防止、②特別栽培米の選別、区分管理等が可能となり、品質の安定・需要用途に即した有利販売が可能となった。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」
 県内のカントリーエレベーター空白地域を中心に掘り起しが必要。
 ②困っている状況が発生している「原因」
 ・島根おおち、石見銀山地区本部で1.9mm選別網目導入のモデル事業に着手するため、主食用米の保管体制がひっ迫してきている。
 ・石見銀山地区本部では、生産拡大する「飼料用米」の受入保管体制が限界に達している。
 ③原因を解消するための「課題」
 ・中長期的な生産計画を踏まえ、JAエリアを超えた広域的施設利用の検討が必要。
 ・検討結果に基づいた再編利用計画の策定が必要。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

島根おおち・石見銀山地区本部が中心となって、米共同乾燥調製施設の広域利用に向けた検討を進めているので、平成28年度事業実施に向けて継続して支援する。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）